

塗り足しについて

塗り足しとは、仕上がりサイズよりも外側の余分な部分(裁ち落とされる部分)の事を言います。

最終的には切り取られる部分ですが、白フチなしで端まで印刷したい場合は、必ず塗り足しが必要です。

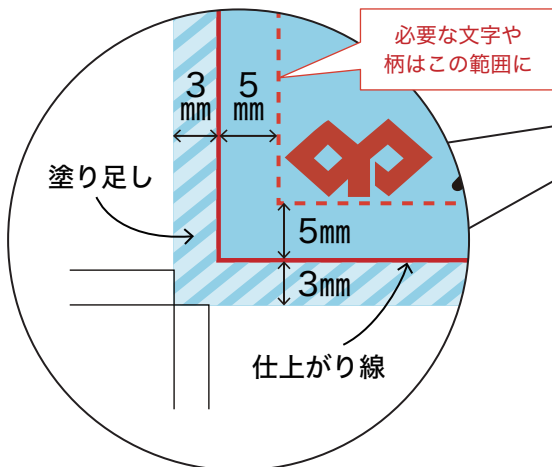
※原稿を仕上がりピッタリのサイズに作ってしまうと、断裁時のわずかな位置ずれで白場が見えてしまいます。

POINT

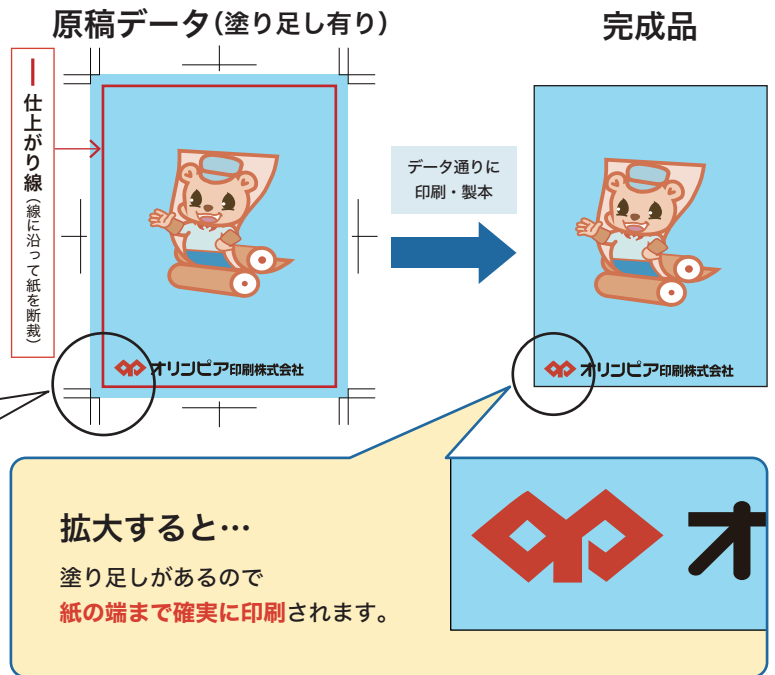
- 塗り足しは、仕上がりサイズの上下左右に3mmずつ背景や図柄を延長するように作成してください。

例) 仕上がりがA4サイズなら…
規格サイズは「210mm×297mm」
塗り足しありの原稿サイズは「216mm×303mm」

- 切れては困る文字や画像は、仕上がり線の5mm以上内側に入れ、ギリギリに配置しないよう注意してください。



○ 塗り足しがある場合



なぜ塗り足しが必要なの？

冊子は実際の仕上がりより大きな用紙に印刷し、製本後、とじ側以外の三方を断裁し、ご指定いただいたサイズに仕上げます。その際、用紙を何十枚も重ねて断裁するため、印刷・製本時に多少の断裁ずれが生じることがあります。少しでもずれが生じると、紙端に白色(印刷されていない部分)が出てしまうため、背景色を実際の仕上がりよりも周囲3mmずつ大きく作成していただく必要があります。

※紙の端まで絵柄や色が入ってなくても構わない場合には、塗り足しなし(仕上がりピッタリのサイズ)のままご入稿いただいても問題ありません。その際は大変お手数ですが、ご入稿時の備考欄に「塗り足しなしのまま印刷OK」とご記入ください。弊社でデータを縮小し、白場を作成ご希望の場合は「縮小して白場作成希望」とご記入ください。

※備考欄にご記入いただけなかった場合、データ不備となり弊社より確認のご連絡をさせて頂く場合がございます。

× 塗り足しがない場合

